

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0270500622		
法人名	有限会社 ころ		
事業所名	グループホーム ころ		
所在地	青森県五所川原市大字桜田字鴻ノ巣431-1		
自己評価作成日	平成22年8月27日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270500622&amp;SCD=320">http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270500622&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年9月27日

# (ユニット名 A棟)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月誕生会では、自分が希望する場所へ出かけています。レクリエーションに手芸をとりいれて、創作活動を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月に1度は家族と面会し、情報交換出来る機会を確保し、常に連絡を取り合うなど、本人及び家族の意向を取り入れたケアに取り組んでいる。また、本人の希望する場所への外出支援やホーム内での創作活動に工夫を凝らし、入居者が自分本位で生き生きとした生活を送れるように取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者を地域の一員として、積極的に関わりがもてるよう支援に努めています。理念を職員全体で話し合い決めています。近隣の小学校の運動会・学習発表会等への参加・交流をはかっています。	「やさしさ・笑顔忘れず、なかよく暮らせるホームを目指します。地域の一員として、積極的に交流の場に参加、かかわりを持ちます。」という理念を職員間で作成し、職員会議等を通じて周知徹底や事業所内に掲示し、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議を開催した際、情報交換、気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けしています。近隣の方より、認知症のことや、施設入所の相談あり対応しています。	近隣から数名入居しており、日常的にホームに友人等が立ち寄っている。近隣の方には行事を案内し、気軽に立ち寄ってもらう取り組みを行っている。また、周辺の方々からも認知症や施設入所などの相談を受けるなど、地域とのつながりを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の認知症の相談や見学等にはその都度対応しています。外部の人の受入れには、入居者のプライバシーに配慮しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。報告書は職員全体が目を通し今後のケアに反映できるよう話合っています。	2ヶ月に1回会議を開催し、自己評価の報告を行うほか、参加者からの意見や改善が必要と思われる事項の根拠を明らかにしている。また、出された意見等については記録を用いて、全職員に周知しサービスの向上に役立てていく取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	外部評価の結果を提出しています。推進会議の際、事業報告を行ない、相談、アドバイスを受けています。	会議に行政職員も参加しているため、会議の機会を活用し、事業報告を行うほか、外部評価の結果を提出し、必要に応じて相談や助言を受けるなど連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する勉強会を行い、日々のケアを提供しています。</p>	<p>職員が外部研修に参加し、その資料を参考に内部研修を実施することで全職員に周知を図っている。また、身体拘束の内容や弊害を理解し、事業所全体で身体拘束はしないという姿勢で取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は同意書を作成し、必要事項を明記した書面を準備し、個人ファイルに記録するよう取り組みを行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、高齢者虐待となる行為を学び、日々のケアのなかで行っていないか等職員全体で話し合っています。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見人制度についての勉強会・研修に参加しています。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、利用者や家族等に事業所の理念等ケアの方針や取組等について説明しています。入居者や家族等の疑問・不安について十分な話し合いを行っています。また、退居先で安心した生活を送れるよう情報提供を行っています。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時気軽に相談できる雰囲気づくりに努めています。入居者の言動を職員間で報告しあい安心した生活を送れるよう話し合っております。家族へは、面会時や電話連絡にて報告し、気軽に意見・苦情等を出してもらえよう働きかけています。</p>	<p>毎月広報誌で利用者の状況を報告し、施設利用料の支払いはホームで行う事で家族との面会の機会を確保し、意見や要望を聞き取る取り組みを行っている。また、職員間で入居者の言動に注意を払いながら、入居者が安定した生活を送れるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こころ会議やその他随時意見や提案を聞く機会を設けています。	職員会議を開催し、各職員と話し合いの時間が確保されている。管理者は職員から日々報告を受け、意見を聞きながら勤務体制を検討するなど日常的に意見や提案などを随時聞くように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、健康診断実施、健康管理に努めています。保有資格に配慮して職員配置、向上心をもっていただけるよう考えています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、受講後は報告しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修の際、交流の機会を設け情報交換を行っています。他施設を訪問するなどしています。月1回開催される地域ケア会議に出席して、他施設との情報交換・事例検討等を行っています。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族等の相談、不安について聞きだせる雰囲気作りに努め、希望に沿った対応ができるような話し合いに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族等の相談、不安について聞きだせる雰囲気作りに努め、希望に沿った対応ができるような話し合いに努めています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に十分な説明と話し合いを行い、本人と家族の希望に沿えるような対応に努めています。今必要としている支援を見極め、場合によっては関係機関との連携を図り、他のサービス機関に移行する支援を行っています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり得意分野が異なるため、その人にあつたものを生活の中で探し、本人の負担にならない程度に手伝ってもらえるよう努めています。家事や軽作業を職員と一緒にし、コミュニケーションをとりながら共に楽しく生活が送れるよう取り組んでいます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしぶりや健康面等随時報告すると共にケアの内容を説明しながら家族の思い、意見を聞き出し、家族の協力も必要な事等伝え共に支え合う関係づくりに努めています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の訪問があり、また面会に来て頂けるよう声掛け、雰囲気作りに努めています。	入居時に本人及び家族からこれまでの生活歴を聞き取りし、馴染みの人や場所の情報収集を行い、外出支援を行っている。また、入居者の知人が訪ねてくるなど交流も定期的に行われ、これまでの交流関係が継続できるように取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルの違いから入居者同士のトラブルがあり、職員間での情報交換を密にトラブル回避とよい関係が保てるよう話し合っています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じる事を話しています。入院した場合は、早期に見舞いに伺ったり、家族と連絡をとったり、また、関係する医療・福祉の関係者とも情報交換を行っています。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望等を日常の会話から遠慮なく話して頂けるよう声掛けをし実現に向けて取り組んでいます。一人ひとりに合わせた起床・就寝時間等があり、個人の生活スタイルを尊重した支援を行っています。必要に応じて家族等から情報収集を行っています。	日々の暮らしの状況や会話から入居者の意向等を把握し、個人の力量や生活スタイルを尊重した支援を行っている。また、適宜家族からも情報の収集を行い、利用者本位の支援が出来るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を主に利用し家族、本人などより生活歴等把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや体調の変化、個別に有する力等の把握に努めて、職員同士で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で困っていることがないかさりげなく聞き出せるよう声掛けしています。入居者、ご家族の要望・意見等を聞き、入居者本位の計画作成に取り組んでいます。職員間で課題に対する目標を明確にし、対応の結果を報告しあっています。	入居者の心身の状況や意向と家族の要望及び意見や、職員間で日頃の気付いた事を話し合い、利用者本位を念頭に、現状に即した計画を作成している。月に1回は家族と管理者及び職員は面会する機会を設けているほか、利用者の状態を常に観察し、把握するよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化に対し迅速に対応できるように個別の記録も事細かに記入しています。また、全ての職員が状況を把握し、同一に対応できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>推進会議を通して、地域の民生委員、駐在所より参加頂き、情報交換を行い、事故等の際、協力いただけるようにしています。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月1回または必要に応じて、本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援しており、その都度結果の報告と今後の対応について話し合いをしています。</p>	<p>入居前に本人及び家族より聞き取りを十分に行い、受診記録を個別に作成し、状況の把握に努めている。入居者や家族の希望により、かかりつけ医の継続受診や病状に合わせ、適切な医療機関を受診出来るように支援している。受診結果は電話連絡し、利用者や家族等との共有が図られている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護師が日常の健康管理を行っています。また、看護師が不在の日であっても同一の対応ができるように介護職員との情報交換も密にし支援しています。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者との情報交換や連携を確保しています。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>随時医療機関へ受診し、今後の対応について家族と話し合いを行っています。</p>	<p>入居時には看取りに関する指針について本人及び家族に十分な説明を行い事業所での対応を共有するとともに、常勤の看護職員や協力医療機関と連携し支援するよう取り組んでいる。状況の変化がある場合には、随時話し合いをもつ取り組みを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、応急処置、救急救命の研修を受講しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で1回は夜間を想定し、訓練しています。特に両隣に対しては、協力を得られるよう働きかけています。	具体的な避難誘導策が作成されていると共に、年2回は夜間を想定した避難訓練を消防職員立ち合いのもと実施し、両隣の住民にも協力を働き掛けている。また、災害時における飲食物や毛布等の備蓄を3日分は用意している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように心がけながら支援しています。入居者の個人情報等については十分注意し業務を行っています。	職員は理念を念頭に一人ひとりの思いを大切に入居者の羞恥心に配慮している。また、入居前には声掛けする際の呼び名を聞き取りし、希望に沿った対応をしている。プライバシーの保護の取り組みに関してマニュアルを用意し、日常のミーティング等を通じて事業所全体で日常的に確認を行い、必要に応じて改善する取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりとコミュニケーションを密に図ることで本人の思いや希望を理解し、また自己決定ができるように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日やレク等月ごとに予定は立てているが、無理に参加を勧めたりしつこく声掛けしたりせず、個々のペースを大切にしながら行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は入居者に選んで頂き、衣服、整容の乱れにはさりげなく対応しています。また、月に一度美容院の来訪があり、本人、家族の希望にて行っています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に苦手なものがあれば個別に変更して食欲を促しています。また、出来ることは本人の負担にならない程度に手伝って頂いています。食べこぼし等、本人が気にしないようさり気なく支援しながら食事を楽しめるよう努めています。職員も一緒に食事をとっています。	事前に嗜好を把握し、献立の変更や身体状況に合わせ形状を工夫し、食事を楽しむ取り組みを行っている。また、食べこぼし等にはさりげなく介助しているほか、利用者の負担にならない程度に後片付け等を職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録と、一人ひとりの状態・習慣等を把握し、1日に必要な量の確保に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者への声掛けや一部介助にて口腔内の清潔保持に努めています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴え時や定時誘導で排泄の支援を行っています。また、本人が失禁等を気にし過ぎないようにさりげなく交換したり、プライバシーに配慮しています。	職員同士の連絡を密にし、個人の排泄状況を把握しながら、事前誘導や定時誘導やアセスメント用紙を用いて見直しを行っている。また、失禁時には自室へ誘導し着替えをするなど利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の確認・記録をして、便秘の改善にむけて状況等を見直しています。また、医療機関へ報告し、下剤等の調整をおこなっています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回の入浴の他に本人の希望に合わせて対応しています。入浴時の状況の観察と職員間で入浴習慣、好みを把握し入浴を楽しめるよう支援しています。	事前に習慣等を把握するとともに、実施時には職員間で観察し、本人の希望に合わせた対応を行っている。また、週3回の入浴日があるも、希望があればその他の日でも対応できる取り組みを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々にレクリエーションや食事準備等、活動量を無理のない程度に行い適度な疲労感が持てるよう支援しています。また、眠剤の変更や不眠時の話し相手等を行っています。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬等がないよう職員間での声掛け、名前の再確認を行っています。薬の変更時には記録と全職員に伝わるまで申し送り報告しています。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式の活用と、日々の生活を観察し把握に努めています。また、一人ひとり得意とすること、楽しみとすること等把握し、充実した生活が送れるよう努めています。			
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、入居者の希望にそって外出先を決め対応しています。また、その際、本人が不便さを感じず楽しめるよう対応に気をつけています。		定期的に外出する機会を確保し、日々の会話の中から利用者の行きたい場所を把握し希望を聞き入れるよう取り組んでいる。また、外出時には福祉用具を活用し、身体に負担をかけないように配慮している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等の場面で入居者の方に支払いの行為を行って頂いています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って対応しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の音量・明るさには常に配慮して不快のないように努めています。また、入居者からも気軽に訴えてもらえるよう声掛けしています。季節ごとにホームの飾り付けを入居者と一緒に創作しています。	日常生活を営む上で発生する音量や明るさなど適切に保たれている。共有スペースのほか、個人の個室にも温度・湿度計が設置され、適切な状態に保てるように工夫されている。また、季節毎に入居者と一緒に制作した飾り付けをするなど工夫し、季節を感じる工夫が行われている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になりたい時、気のあったもの同士で過ごしたい時等、過ごせる場所があります。また、喫煙場所も確保できています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりにあった居室づくりをする為に、使い慣れた物、好みの物を家族の協力を得ながら設置し心地よく過ごせるように工夫しています。	入居時に積極的に私物の持ち込みを促しているほか、持参した写真や行事などで撮った写真、作成した作品等を自室に飾り付けする等、落ち着いて過ごせるように取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の混乱や行動の失敗の原因を探り自立した生活を送れるよう話しあっています。また、入居者の不安・混乱等のない環境作りに努めています。居室の目印は一人ひとり違うものになっています。			